

平成23年度第1回 沖縄県障害のある人もない人も暮らしやすい
地域づくり県民会議議事録要旨

日時：平成23年9月20日（火）

場所：県庁3階第1・第2会議室

- 障害者県民会議会長に琉球大学法文学部教授の高嶺委員が選出され、議長を務める。
冒頭の挨拶で、国連の障害者権利条約、国の障害者基本法改正、他県の障害者条例、県内のこれまでの動向について見解を述べた。
- 副会長にNPO法人生活自立支援センター事務局長の長位委員と、沖縄県手をつなぐ育成会会長の田中委員が立候補し承認された。副会長選出の議論の中で、自分たちの権利だけを主張するのではなく、お互いの意見を聞き協力し合って県民に広く理解してもらうことが大事だという意見が上がった。
- 事務局からの会議運営・傍聴の説明に対して、情報保障等の質問があり、今後は事前に申し込みがあれば、傍聴席にも要約筆記・点字資料等の準備をするとの回答があった。
- 会議日程についての説明後、事例ヒアリングの際の手話通訳等の手配に関する質問があり、手話通訳士の人数の関係から、難しい場合もあるかもしれないが、可能な限り手話通訳士の派遣を調整したい旨の回答が事務局からあった。
- 第2回目の委員による意見発表については、委員同士の情報共有・意思疎通をよくするために行う。
- 事務局案のヒアリング先一覧に、委員からの追加提案が数件あった。
- 事例ヒアリングのみではなくて、手紙やインターネット等を使ったアンケートも必要ではないかとの意見あり。
- 何を基準に障害とし、ヒアリング候補先に挙げたのかという質問に対し、障害者を定義する障害者基本法等の各法を基本にし、今回特定疾患等を入れているとの回答があった。

- ヒアリング等を実施し、来年の3月に方策の取りまとめをした後のスケジュールに関する質問があり、この障害者県民会議については、方策の取りまとめで一旦役割は終了し、その後は障害者施策推進協議会に示して、県の方で条例案を作っていく。
- 障害受容という障害を認めず受け入れない人がたくさんいるが、情報が足りずに差別だと気づかない人もいる。今は健康であっても、遅かれ早かれ皆障害者となるので、その時に困らないようにするという考えもある。
- 議論すると大変な作業だということが少し見えてきたが、ヒアリングや情報収集の中身を詰めていってほしい。
- 今回は、発言のない委員もいるが、次回からできるだけ全員の意見を聞けるような形で進める。